

1: 出席者

加藤^a・大西^b・片山・能登・平林・大塚^c・合川^c・吉田^c・須田^c・黒河^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 来年度の COE (現在の 3 名) が決定した。(加藤)
- 外国人招聘で J.Cseh 氏を招聘する(加藤)
- 須田氏が 3 月で VBL の COE 研究員を退職し、東大へ異動する。(加藤)
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 25-31 回、詳細については資料参照) (大塚)

3: 議論

- 年報の構成 (承認)
 - (題名、執筆者、ページ数)
 - 巻頭言 (昨年度は能登) 片山 (1p)
 - 新 GSYS のマニュアル 鈴木 (15-20p)
 - グラフ数値読み取りシステムの国際ベンチマーク 大塚+鈴木 (7p)
 - 辞書作業部会 (NTX-WG) 報告 能登+大塚+加藤 (20p)
 - 2005 年 IAEA 核反応データセンター会議報告 大塚 (16p)
 - 2005 年度に JCPRG から配信された EXFOR ファイル 大塚+加藤 (9p)
 - 2005 年度に JCPRG から配信された CINDA ファイル セルゲイ+黒河+大塚 (5p)
 - ND2004 の論文再録 青山+大塚 (9p)
 - DARPE 利用マニュアル 大塚+セルゲイ (23+24p)
 - 資料: 2005 年度入力データ 吉田+加藤 (10p)
 - 資料: 2005 年度 JCPRG 活動日誌 吉田 (7-8p)
 - 略語一覧 大塚 (1p)
 - 日本荷電粒子核反応データグループ (JCPRG) 吉田 (1p)
- ¥¥Data の括りだし (承認)

従来、¥EXP セクションでは、複数のデータセットに渡って共通な項目名=項目値;の文が存在する場合は、これを複数のデータセットに関して、¥¥EXP,1[2 という形で括りだしてきた。これと同様に、¥¥DATA セクションに関して、¥¥DATA,1[2 というような形で括りだすことが論理的には可能であり、この括り出しを、検索システムでは特定データセットの表示の際には集積して表示する、という条件(既に DAPRE で実装)のもとで認める。
- 2 次ビームを用いた実験の採録方法 (承認)

2 次ビームを用いた実験の採録については、2 次ビームを生成するための 1 次ビーム部分の反応や加速器の採録をどのように行うか、という問題があり、長らく採録方法が定まっていなかった。2 次ビームによって得られた結果がビームの製法に依存するのかどうかを、中性子、中間子、不安定核ビームを用いた 10 例の内外の採録論文を取り上げ 2 次ビームに関して何を言及しているかについて調査報告が行なわれた。

番号	出版年	機関	反応	物理量	備考
D1639 (NRDF)	1992	TIT	n, g	CS	Neutron capture by Sulphur-32
D1806 (NRDF)	1997	IPC	11Be, in1	DA	Coulomb excitation
D1840 (NRDF)	1983	KEK	pi-, el	DA	
D1895 (NRDF)	2004	IPC	Be, fus	SIG	Evaporation residue production
D1914 (NRDF)	2004	KEK	pi-, K+	DAE	

D1924 (NRDF)	2004	IPC	17B,X	SIG	Reaction cross section
D1926 (NRDF)	2005	IPC	17C,n	SIG	Neutron removal cross section
C1148 (EXFOR)	1992	MSU	11Li,sct	DA	Quasi elastic
D0132 (EXFOR)	1999	DUB	6He,...	DA	Elastic, 5He, 3He, alpha channel
D0245 (EXFOR)	1996	GAN	6He,6Li	DA	

いずれも、ビームの製法に関して、ビームの分解能、強度、不純物除去などに関する記述はあるが、製法に起因する誤差、製法の妥当性を確認するための他のビームを用いた実験との比較が与えられた例はなかった。これらを踏まえて、2次ビームの製法が結果に与えるということが論文で特に示唆されていない限り、以下のような方針を採ることとする。

- 1) 二次ビーム実験の場合、NRDFは二次ビームを「入射粒子」と定義する。
- 2) RCTには、二次ビームを入射粒子のフィールドに書く。
- 3) ACCは、加速した粒子が、一次ビームか、二次ビームかが分かるようにする。
- 4) RIビームの分離器 (projectile fragment separator) はコード PRJFSをACCの値とする。

● マスターファイルの修正に関して (承認)

明らかなケアレスミスに関しては、複数の JCPRG メンバー (ミスの発見者 + 他の一人) の確認がとれれば、修正を行うことを可能にする。ただし、かならず後の管理運営委員会において報告することとする。

● Journal of Physical Society of Japan, Supplement のコードと関連するマスター修正 (承認)

上記雑誌のコードを JPJ/S とし、関連して D0005 の REF を JPJ/S とすることとする。

● D#のないファイル2件のマスターファイルの修正 (承認)

D0186 と D0681 という名前の二つのファイルに関して D#レコードが抜けていた。いずれも論文のコピーとファイルの中身の照合から、D#=D186, D#=D681 として問題ないことをチェックしたので、これに関するマスターファイルを修正する。

● 重複採録1組に関するマスターファイルからのファイル1件の削除 (承認)

D1131 と D1565 は同じ論文の採録であるが、D1131 は著者からもらった数値が格納されており、D1565 はデジタル化した数値が格納されているので、D1565 を削除して、D1131 をマスターに残すこととする。

● 2JPNJPN の個別機関コードへのマスターファイル修正 (承認)

足利工業大学 (2JPNAIT)、京都教育大学 (2JPNKUE)、国際基督教大学 (2JPNICU)、千葉工業大学 (2JPNICIT)、東京都立大学 (2JPNMTU)、徳島大学 (2JPNTKS)、長崎総合科学大学 (2JPNNIT)、山形大学 (2JPNYMG) のそれぞれについて 2JPNJPN の部分をそれぞれの機関コードとするようにマスターファイルを修正する。

D0662 D0735 D0749 D0770 D0774 D0778 D0782 D0838 D0839 D0932 D0933 D1089 D1118 D1131 D1133 D1140 D1146
D1150 D1151 D1152 D1155 D1164 D1186 D1190 D1200 D1203 D1208 D1233 D1253 D1255 D1280 D1283 D1284 D1285
D1306 D1307 D1310 D1313 D1314 D1316 D1317 D1318 D1326 D1332 D1351 D1353 D1354 D1370 D1375 D1377 D1390
D1408 D1417 D1437 D1440 D1442 D1459 D1461 D1473 D1474 D1475 D1484 D1496 D1548 D1550 D1561 D1575 D1580
D1582 D1585 D1585 D1593 D1629 D1631 D1638 D1641 D1643 D1664 D1666 D1667 D1693 D1695 D1696

● 構文エラーなどに関するマスターファイルの修正 (承認)

以下はエラーチェックによって見つかったエラーである。これらに関してマスターファイルを修正する。

➤ 使用不可な文字

(例 TO 39 瀑 ROM THE 4HE BEAM, (ANTIP/PION-)**10^-3, D#)D1655;)

D0104 D0285 D0624 D0665 D1351 D1395 D1477 D1481 D1484 D1489 D1516

➤ 73 カラム以上のレコードを折り返した

D1194 D1274

➤ データストリーム構造の異常(制御文の欠落、重複、書式異常など)

(例 ¥¥DATA,1,; ¥¥,EXP,8[9; ¥¥EXP.1[3,6;)

D0129 D0133 D0143 D0206 D0237 D0258 D0337 D0339 D0346 D0354 D0388 D0416 D0424 D0438
D0442 D0446 D0466 D0475 D0476 D0491 D0498 D0500 D0526 D0592 D0605 D0623 D0661 D0662
D0666 D0681 D0749 D0822 D0892 D0916 D1177 D1124 D1444 D1468 D1489 D1491 D1552

➤ 構文エラー 1 ~ /* */のない自由文、無意味な文字の混入、許されない空白

(例 /@*24@*/ THTL=90DEG;F INC-ENGY-LAB=800MEV; ERS-PRJ=X KEV;)

- D0038 D0126 D0134 D0220 D0301 D0364 D0366 D0420 D0440 D0442 D0470 D0522 D0548 D0555
D0589 D0620 D0623 D0785 D0867 D1000 D1132 D1254 D1294 D1377 D1388 D1629 D1671 D1675
- 構文エラー 2 ~ セミコロンで閉じられるべき文(コロンで閉じられているなど)
(例 ¥DATA ¥EXP,1[4,8 THTL-135DEG ENGY-EMT=543KEV; Z-RESD=56NODIM)
D0006 D0065 D0084 D0098 D0136 D0260 D0292 D0329 D0378 D0412 D0416 D0442 D0486 D0507
D0526 D0549 D0554 D0592 D0604 D0621 D0652 D0808 D0992 D1462 D1465 D1637 D1664 D1684
 - 構文エラー 3 ~ 左辺の書式異常 (左辺に連結子があるなど)
(例 INC-ENGY-LAB'I'=[16; ENR>=99%; QVL>=-10.0MEV'21';)
D0524 D0530 D0588 D0649 D0718 D0793 D0808 D0924 D1181 D1210 D1220 D1263
 - 構文エラー 4 ~ 右辺の書式異常 1 (未知値に X 以外使用など)
(例 QVL=-'. 'MEV; TRNSF-L=??; ERS-DET='2'KEV; SYS-ERR=<[20%;)
D0004 D0026 D0047 D0068 D0099 D0070 D0102 D0103 D0106 D0114 D0116 D0124 D0130 D0160
D0197 D0204 D0123 D0280 D0412 D0433 D0481 D0496 D0552 D0594 D0624 D0662 D0703 D0722
D0729 D0733 D0856 D0890 D1059 D1165 D1169 D1224 D1302 D1405 D1414 D1607 D1694
 - 構文エラー 5 ~ 右辺の書式異常 2 (単位のみで値がない、未知値が多い)
(例 BEAM-INTNSTY=A; SOLID-ANGL=MSR; THTL-1=DEG'6'; POL-PRJ=%;)
D0102 D0763 D0862 D0864 D1396 D1416 D1677
 - 構文エラー 6 ~ 右辺の書式異常 3 (括弧が欠落、複値を囲む括弧が欠落)
(例 DET-PARTCL=T); (197AU(27SI,PIN)X;)
D0095 D0107 D0124 D0163 D0189 D0230 D0416 D0442 D0589 D0590 D0595 D0621 D0657 D0665
D0676 D0758 D0837 D0890 D1198 D1204 D1489
 - 構文エラー 7 ~ 右辺の書式異常 4 (値が空)
(例 SPEC-FCTR=;)
D0306
 - 構文エラー 8 ~ 表中に項目行・単位行がない、単位行の後に項目行がある
D0198 D0446
 - 構文エラー 9 ~ 表中の項目行・単位行の書式異常
(例 DATA'I'-ENGY EXC.ENGY)
D0185 D0209
 - 未知の制御文コード
(例 THTL15[165DEG; CMPD; EXC-ENGY-0.0MEV; /*@3@*);
D0029 D0068 D0206 D0416 D0499 D0548 D0549 D0563 D0638 D0661 D0667 D0783 D0416 D0589
D0808 D0915 D0953 D1220 D1433 D1667
 - 未知の左辺コード
(例 41.9ENGY-LAB=65MEV;)
D0442 D1131
 - 未知の右辺コード
(例 BEAM-INTNSTY=VAR; RSD=56C0;)
D0621 D0589
 - 必須項目の欠落
(例 D#文がない)
D0661
 - コードがあるのに使っていない
(例 REF=X'7'; -> REF=JPR/C'7;)
D1351
- 新規コード
 - JPJ/S (V 型クラス 1) : Journal of Physical Society of Japan, Supplement
 - INTNSTY-GAMMA (F 型) : Intensity of gamma transition
 - DELTA-THTL-1, DELTA-THTL-2 (F 型)
Error in Scattering angle theta of emitted particle 1 (or 2) in lab. system
 - ENGY-GAMMA-3 (F 型) : Energy of gamma ray 3

- THTL-3 (F 型) : Scattering angle theta of emitted particle 3 in lab. system
- EMT-3 (F 型) : Emitted particle 3
- WO3 (V 型、クラス 8.3) : WO3
- TiO2 (V 型、クラス 8.3) : TiO2
- NI (V 型、クラス 8.4) : Ni
- J-PI (F 型, Obsolete) : J parity

本来は J-PTY を使うべき物理量だが、古い論文では J-PI が使われていて辞書に存在していないので、Obsolete として、辞書に追加する。

- 2JPNKNZ (V 型クラス 1) : Kanazawa Univ., Kanazawa

- 修正コード

- ENGY-EMT-LAB-GAMMA (F 型) は現在使われていないので削除する。

- 辞書ワーキンググループについて

- 日程は、月曜 3 時より。
- コーディングのチェックの際にデータ評価を試みる。

4: 次回

2006 年 4 月 24 日 18:30~